

## 能楽研究所彙報(昭和55年4月～56年3月)

---

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

能楽研究 : 能楽研究所紀要

(巻 / Volume)

7

(開始ページ / Start Page)

191

(終了ページ / End Page)

198

(発行年 / Year)

1982-03-31

# 能楽研究所彙報

(昭和55年4月～56年3月)

## 〔科学研究費補助金による研究成果報告〕

文部省の科学研究費補助金による所員の共同研究の成果を左に報告しておく。

1. 課題番号 451089
2. 研究課題 能の演出変遷に関する研究
3. 研究代表者 法政大学文学部教授 表 章
4. 研究分担者 法政大学第一教養部教授 片桐 登  
法政大学文学部助教授 西野 春雄  
法政大学文学部兼任講師 竹本 幹夫
5. 研究経費 昭和54年度 一〇〇万円  
昭和55年度 四〇万円 計 一四〇万円

## 〔研究成果の概要〕

本研究は、能の演出変遷に関する基礎資料(謡本・伝書・型付・離子手付など)を写真によって蒐集し、その内容を分析・整理して個々の曲(または技法等)の演出変遷の跡を明らかにする作業を積み重ね、能全般の変遷や芸術の変化を把握しようとするものであった。従って、54年度・55年度ともに基礎資料の調査と写真撮影にもっとも力を注ぎ、観世元正(シテ方観世流宗家)・金春信

高(シテ方金春流宗家)・喜多実(喜多流宗家)・観世元信(太鼓観世流家元)・河村隆司(観世流シテ方)・亀井忠雄(葛野流大鼓方)・前川光隆(金春流太鼓方)など能楽専門の家々の蔵書をはじめ、国会図書館・岩国徴古館・檜常太郎・松井閑花・田中允・歌原定昭の諸機関・誌氏の所蔵文書を調査し、主要な演出資料をフィルムに収めた(一部は所蔵機関の手を経てのポジフィルムや写真)。36枚どりフィルム五〇〇本を越える蒐集の過半は従来未知の新資料であり、それ自体が本研究の大きな成果と言えよう。その内の一部を具体的に例示すれば左の如くである。

観世織部重記筆(恋重荷)型付書状 一通 観世元正氏蔵  
寛文四年秋扇翁奥書(蟻通)型付 一卷 金春信高氏蔵  
慶長頃筆下掛り五番綴升型謡本 十冊 田中 允氏蔵  
江戸中期筆大蔵流問狂言本 九冊 //  
北七大夫長能節付五番綴謡本 四冊 喜多 実氏蔵  
慶安五年奥書幸流小鼓伝書 十帖 歌原貞昭氏蔵  
永祿十一年奥書観世国広太鼓伝書 一冊 観世元信氏蔵  
江戸初期筆白茶表紙大本太鼓頭付 二冊 //  
元龜二年奥書聞書(太鼓伝書) 三冊 //  
青表紙本観世国重太鼓伝書 一冊 //

- 観世身愛筆永禄十一年国広太鼓伝書 三冊  
 茶色表紙本太鼓頭付 二冊  
 江戸初期筆鼓伝書「風鼓」 一冊  
 樋口石見守奥書大鼓伝書 二巻 鴻山文庫蔵  
 元亀三年奥書『大鼓秘宝書』 二冊 亀井忠雄氏蔵  
 下掛り宝生流脇仕舞付 二冊 河村隆司氏蔵  
 江戸末期筆大型横本装束付 一冊  
 寛政二年筆装束付 一冊  
 江戸末期筆大鼓伝書「奥義抄」 一冊  
 森田流笛伝書「柴船集」 一冊  
 江戸中期筆秋扇翁伝書「舞台図并作物之法」 一冊  
 万治四年奥書大蔵流鼓伝書「統風姿抄」 一冊 前川光隆氏蔵
- 右の諸資料のうち特に利用価値の高いものは写真に引伸ばし、能楽研究所が従前から撮影済みだったフィルムからの引伸ばし分と合わせて、フィルムともども、能楽研究所に於いて一般研究者にも公開してゆくことにし、すべてを能楽研究所に寄贈した。
- 蒐集した資料に基づく個々の曲(または技法等)の演出変遷の研究は、長年月にわたって徐々に進めざるを得ないが、そのサンプルとして、代表者及び分担者が特に関心を抱いている曲についてまとめることにし、すでに幾つかの論文を紀要等に発表した。
- また、諸資料の中で能の演出史研究上とくに価値の高いものについては、それを翻印して研究者に公開することにし、法政大学能楽研究所編・わんや書店発行の「能楽資料集成」(既刊11冊)の一つとして、『観世流古型付集』『幸正能口伝書』『金春安照型付

集』『実鑑抄系伝書』『観世国広太鼓伝書集』を刊行すべく準備中で、西野春雄が校訂・解説を担当する『観世流古型付集』(観世宗家蔵の「宗節仕舞付」や「妙佐本慶長型付」等を収める)はすでに初校が出揃い、六月頃に刊行される予定である。将来にわたってそうした成果を発表し得る見込みで、代表者・分担者らが個々に発表する論文よりも、蒐集した成果を公開することが学界を益するところがより大きいとも言えよう。

補助金支出が二年間に限定されたため、当初は三年計画で出願した研究を二年間に短縮したための無理はあったが、非公開の資料を多く発掘し得たことをはじめ、所期の成果はかなり達成したものと思う。

〔研究発表〕

- 表章「作品研究〈融〉」 雑誌『観世』47巻8号(80年8月)
- 西野春雄「謡曲改作史の一断面」『能楽研究』6号(81年3月)
- 表章「作品研究〈玄象〉」 雑誌『観世』48巻8号(81年8月)
- (以下は「能楽資料集成」としてわんや書店より刊行予定分)
- 西野春雄校訂・解説『観世流古型付集』 昭和57年7月
- 竹本幹夫校訂・解説『幸正能口伝書』 昭和57年12月
- 表章・小田幸子校訂・解説『金春安照型付集』 昭和58年3月
- 表章校訂・解説『実鑑抄』 昭和58年11月
- 竹本幹夫校訂・解説『観世国広太鼓伝書』 昭和59年中

研究の性格上、一つの論考の形に成果をまとめることは不可能なので、以上を一応の成果報告とする。

## 〔観世寿夫記念法政大学能楽賞〕

本賞は、昭和53年12月7日、53歳で急逝された不世出の能役者観世寿夫氏の能界・劇界等における比類ない業績を記念して、御遺族からの大学への寄付金と大学が拠出する分を加えて基金とし、昭和54年6月に設定された。(一)能楽の研究・評論、(二)舞台活動、(三)能楽と他の芸術分野との交流、の三分野において顕著な業績をあげた個人または団体を授賞対象としている(二一件)。

55年度はその第二回で、選考委員は、代表委員増島宏(法政大学学務理事)・横道萬里雄(東京芸術大学教授)・広末保(前法政大学文学部教授)・古賀照一(法政大学第一教養部教授)・表章(同能楽研究所員)の五氏。10月上旬に能・演劇・音楽の研究者・評論家など約百名に受賞候補者の推薦を依頼し、11月上旬までに31名の方が返信を寄せられた。11月中旬に選考委員会が開かれ、慎重審議の結果、野村万之丞氏と吉越立雄氏が受賞者に選ばれ、11月29日付、総長名義で各方面に受賞者決定の旨を報知した。受賞者と主な経歴・授賞理由は左の通りである。

○〔受賞者〕 野村万之丞(のむら・まんのじょう)氏

〔授賞理由〕：最近の氏の舞台には、55年9月26日の野村万蔵追善会での「花子」をはじめ、狂言・間狂言ともに、卓越した成果が多く、その演技は狂言の伝統的技法の確かさを強く印象づけるものであった。

〔主な経歴〕：昭和5年生れ。東京都出身。和泉流狂言方。故野村万蔵氏の長男で、本名は太良。27年東京音楽学校邦楽科

卒。昭和9年に「うつぼ猿」の猿で初舞台を踏み、25年に「釣狐」を披いた際に芸名を万之丞に改めた。弟の野村万作氏と共に早くから狂言界のホープで、芸術祭奨励賞を二度受賞し、新作狂言の上演や現代演劇との交流に積極的に取り組むなど、多彩な舞台活動を展開し続けている。最近の顕著な舞台成果として、授賞理由に挙げた「花子」の他、「布施無経」「三番叟」「那須与市語」「富士松」や「武悪」のアドなど、広範な演技が多くの推薦者から推奨されていた。

○〔受賞者〕 吉越立雄(よしこし・たつお)氏

〔授賞理由〕：多年、能楽の写真一筋に打ち込み、記録写真の域を出なかったこの分野で新鮮な影像を生み出すことに大きく貢献した。昨年末の「幽玄―観世寿夫の世界」写真展(西武美術館)も大きな成果である。

〔主な経歴〕：大正12年生れ。東京都出身。昭和30年東京写真大学卒。日本写真家協会会員。写真を業として以来、能・狂言を対象とする撮影に専念し、従来の能楽舞台写真の枠を越えるユニークな作品を発表し続けている。著書に『能―吉越立雄写真集』(47年、筑摩書房刊)があり、別に保育社カラーブックス『能』『狂言』や淡交社刊『花と余情』などの共著者として写真を担当し、『観世寿夫―至花の風姿』(54年、平凡社刊)など写真主体の多くの書に写真を提供している。54年12月の西武美術館の「幽玄―観世寿夫の世界」展の写真はすべて吉越氏撮影のものであった。

授賞式は、12月11日午後6時から、赤坂プリンスホテルで開か

れ、観世弘子夫人や観世雅雪氏御夫妻など故人の関係者も列席された。増島宏選考委員代表の選考経過報告の後、中村総長から、野村万之丞氏と吉越立雄氏に賞状と賞金(25万円)が授与され、このあとレセプションに移り、歓談ののち午後8時半に散会した。

〔紀要「能楽研究」の発行〕

昭和55年11月10日付で研究所紀要『能楽研究』の第五号を発行した。A5版一六四ページで、内容は次の通りである。

世阿弥の平仮名書の用字法の特徴(上) 表 藤 ゆう子 章 一  
後 藤 ゆう子 章 一  
『狂言古図』解説 古川 久 二

研究展望(昭和53・54年) 西野 春 雄 一〇五  
能界展望(昭和53・54年) 竹本 幹 夫 一三三

THE LETTERS OF ZEAMI P.G.オニール 一五〇

—One Received from Junji Gon-no-Kami and Two Sent to Zenchiku—

第五号(一九七九・一九八〇)は54年度中に発行すべきものが遅延した分である。第六号を引続き55年度中に発行すべく、準備を進め、年度内に発行できた。第六号については次回に報告したい。

〔所員 研究業績〕

表 章

『能楽と奈良』 奈良市 55・4

江戸初期の仕舞(中・下) 『観世』 5・7月号 55・57

作品研究〈融〉 『観世』 8月号 55・8

『能之訓蒙図彙』(能楽資料集成10) 校訂・解説 わんや書店 55・8

観世寿夫の研究的なる著述の背景 『観世寿夫著作集一』 55・11  
世阿弥の平仮名書の用字法の特徴(上下) 後藤ゆう子氏と連名

『能楽研究』 56号 55・11・56・3  
『能楽全書』<sup>綜合</sup>第二卷 56・1  
『能楽全書』<sup>綜合</sup>第三卷 55・5

西野 春 雄

謡曲曲名総覧 『能楽全書』<sup>綜合</sup>第三卷 55・5  
明治新作謡曲一覽 //  
以前謡曲注釈曲一覽・翻訳曲一覽 //

能楽諸家系譜・能楽史略年表 『能楽全書』<sup>綜合</sup>第二卷 56・1  
謡曲改作史の一断面 『能楽研究』 6号 56・3

片 桐 登

宝生座の歴史稿<sup>近世初期の宝生座を中心</sup>(十一〜十五) 『宝生』 55・4891011  
鼓打ち又兵衛の歌(一)(二) 『宝生』 6・7月号 55・67

近江「大王」史料紹介 『宝生』 1月号 55・1  
日吉座「大王」史料紹介 『宝生』 3月号 56・3  
弘安年中能楽史料紹介 『能楽研究』 6号 56・3

古川 久

『狂言古図』解説 『能楽研究』 5号 55・11  
野村万蔵伝の試み(一)~(六) 能楽タイムズ346~356号 55・12~56・11  
魁堂芸話(一)~(四) 『梅若』 242~245号 56・1~7

能研と野上さん 『野上弥生子全集』月報10 56・3  
狂言師としての森川杜園 『能楽研究』 6号 56・3

竹本 幹 夫

素囃子の変遷(一)~(六) 『鏡仙』 276~286の偶数号 55・3~56・3

「謡舞」(うたいまい)の形成(上) 『実践国文学』18号 55・10  
 「三道」の改作例曲をめぐる諸問題 『実践国文学』19号 56・3  
 「親子物狂能」考 『能楽研究』6号 56・3

〔その他〕

所長の交替

当研究所の所長は、文学部長の交替に伴ない55年4月1日付で小谷洋一教授(英文学科)から矢内原伊作教授(哲学科)に替った。

古川所員の退職

研究所の前身である能楽研究室時代、そして昭和27年4月の創立以来、約三十年にわたって所員として活躍した古川久氏が56年3月をもって定年退職された。古川所員は、旧制松本高校、信州大学、東京女子大学、東京農工大学等の教授を歴任され、現在、武蔵野女子大学教授をしておられるが、研究所の蔵書の充実をはかる基礎がための段階から今日まで、兼任所員として尽力してこられた。昭和47年秋の創立20周年記念行事「能の講演と映画の夕」(於・朝日講堂)、52年秋の創立25周年と「鴻山文庫」受贈を記念した「能楽資料展」(於・霊友会釈迦殿)などの開催にあたっては格別お世話いただいた。江島伊兵衛氏が蒐集された一大コレクション「鴻山文庫」の本学への寄贈や水野善次郎氏旧蔵の驚流狂言資料の受贈なども、古川所員のご尽力に負う所が大きい。夏目漱石の研究者としても著名な氏は、常に広い視野から能や狂言をみすえ、能楽の分野を越えた幅広い研究活動を展開している。そうした諸業績のなから、ご著書を左に示し、古川所員の学恩に深

い感謝をささげたい。

『狂言 野村万蔵聞書』 生活社 昭21・11  
 『狂言の研究』 福村書店 昭23・3  
 『評狂言全釈』 紫乃故郷舎 昭25・10  
 『梅暦』(上下) 岩波文庫 昭25・1、26・11  
 『狂言集』(上中下) 日本古典全書 朝日新聞社 昭28・5、31・1  
 『能の世界』 現代教養文庫 社会思想社 昭35・2  
 『狂言の世界』 現代教養文庫 社会思想社 昭35・12  
 『欧米人の能楽研究』 東京女子大学学会 昭37・12  
 『狂言辞典 語彙編』 東京堂出版 昭38・4  
 『狂言古本二種』 わんや書店 昭39・7  
 『世阿弥・芭蕉・馬琴』 福村出版 昭42・11  
 『青春への出発―阿部次郎のことは―』 現代教養文庫 社会思想社 昭44・2  
 『明治能楽史序説』 わんや書店 昭44・3  
 『漱石の書簡』 東京堂出版 昭45・11  
 『夏目漱石―仏教・漢文学との関連―』 仏乃世界社 昭47・4  
 『百人一首一夕話』(上下) 岩波文庫 昭47・12  
 『増俳諧歳時記葉草』(上下) 生活の古典双書 八坂書房 昭48・11  
 『漱石全集索引』(共編) 岩波書店 昭51・4  
 『狂言辞典事項編』(共編) 東京堂出版 昭51・12  
 『漱石と植物』 八坂書房 昭53・10  
 『夏目漱石遺墨集』(第六巻 書簡編) 求龍堂 昭55・3

法政大学百年史への執筆

法政大学百年史編纂委員会編『法政大学百年史』(55年12月)が

出版された。記念事業の一つで、同書の第三編「付属機関史」のうち、「<sup>野上</sup>能楽研究所」の項を表所員が執筆した。

#### 富士見地区80年館への移転

55年度末に麻布校舎から富士見校舎の新装の図書館研究室棟に移転するため、その準備と整理にあたった。閲覧業務になるべく支障をきたさぬように準備を進めたが、約十年間におよぶ麻布校舎時代に、研究所の蔵書はかなり充実し、そのため十年前の移転次とは比較にならないほど時間と労力を要した。ちなみに、大学紛争を避けて麻布校舎へ一部の図書を保管していた頃から麻布時代を通じて研究所に寄贈または寄託された能楽関係資料を受入れ順に示すと、次のとおりである。

〔楠川文庫〕 44年9月 能楽師楠川正範氏（芳朗。金剛流から観世流に転じたシテ方。44年6月歿）旧蔵図書。金剛流関係資料中心。約三百冊。寄贈。

〔三宅文庫〕 47年夏 謡曲研究家三宅航一氏（45年2月歿）旧蔵図書。謡研究書とレコード類。約三百冊。寄贈。

〔<sup>鷺流</sup>水野文庫〕 47年夏 狂言愛好家水野善次郎氏（47年1月歿）旧蔵図書。鷺流狂言関係資料。約三百冊。寄贈。

〔観世新九郎家文庫〕 50年6月 北海道千歳市の服部康治氏（千歳第一病院院長。小鼓方観世流観世新九郎家別家の後裔）所蔵の観世新九郎家旧伝文書。約六百点。寄託。

〔鴻山文庫〕 52年夏 能楽研究家江島伊兵衛氏（能楽資料蒐集家。能楽研究所顧問。50年10月歿）旧蔵図書。古今の能楽資料約一万点。寄贈。

〔香西文庫〕 54年3月 能楽研究家香西精氏（能楽研究所顧問。54年1月歿）旧蔵図書。史料類ほか。約千冊。寄贈。

研究所の蔵書と般若窟文庫（41年寄託）、およびこれらの文庫を擁しての移転であり、重要文化財級の資料も少くないので、荷造りは慎重を期した。大学院の学生諸君にも手伝いをお願いして箱詰め作業を進め、56年3月13・14日の両日、移転を完了した。

#### 〔受贈図書〕

単行本（受入順 \*印は寄贈者）

森田流奥義録 森田光春編 \*能楽書林 昭55

御伽草子（図説・日本の古典13） 市古貞次編 \*集英社 昭55

猿楽能の思想史的考察 \*家永三郎著 法政大学出版局 昭55

天理図書館の善本稀書 \*反町茂雄著 八木書店 昭55

能楽全書（二・三・五） 野上豊一郎編 \*東京創元社 昭55

西野春雄・松本雍解題付補注

連歌寄合集と研究（上下） \*木藤才蔵・重松裕巳編著

未刊国文資料刊行会 昭53・54

能・狂言（図説・日本の古典12） 小山弘志他編 \*集英社 昭55

能を見る日々 丸岡大二著 \*能楽書林 昭55

能楽と奈良 \*表 章著 奈良市 昭55

演劇年報 一九八〇年版 \*演劇博物館編 早稲田大学出版部 昭55

佐渡と能謡 後藤政治・椎野廣吉編 佐渡能楽研究会 昭53

東大寺修二会の構成と所作下（芸能の科学12） 佐藤道子（担）

\*東京国立文化財研究所芸能部 昭55

- 未刊謡曲集三十一 \* 田中允編 古典文庫 昭55  
 芸能の科学 芸能論考VI \* 東京国立文化財研究所芸能部 昭55  
 調査報告集1 \* 国立民族学博物館情報管理施設 昭55  
 弥左衛門芸談 豊嶋弥左衛門著 \* 能楽書林 昭55  
 世阿弥新考正統 香西 精著 \* 香西昭夫 わんや書店 昭55  
 観世寿夫著作集(一・二・三) 観世寿夫著 \* 平凡社 昭55・56  
 世阿弥 小林静雄著 \* 檜書店 昭55  
 花鳥風月(別冊太陽愛蔵版) 西田成夫編 \* 平凡社 昭55  
 図説名古屋の狂言装束(肩衣) 堀江勤之助著 私家版 昭55  
 雑誌その他  
 青山語文 第10号(昭55) 青山学院大学日本文学会  
 跡見学園短期大学紀要 第16・別号(昭55) 跡見学園短期大学  
 梅若 第238号(昭55) 第243号(昭55・56・57) 梅若会  
 岡大文論稿第8号(昭55) 岡山大学文学部国語国文学研究室  
 学習院大学国語国文学会誌 第23・24号(昭55・56) 学習院大学国語国文学会  
 観 昭 第11卷3号(昭55・56) 観昭会館  
 観 世 第47卷4号(昭55・56) 観世 檜書店  
 かんろう 第236号(昭55・56) 大阪能楽観賞会  
 喜多 昭和55年春(昭55) 十四世六平太記念財団  
 きたくに 第131(昭55) 第133号(昭55) 北国川柳社  
 橋 香 第26卷7号(昭55) 第27卷3号(昭55・56) 梅若研能会  
 国語国文 第11号(昭55) 宮城教育大学国語国文学会  
 国語国文研究 第63(昭55) 第64号(昭55) 北海道大学国文学会  
 国際関係学部研究年報 第1号(昭55) 日本大学国際関係学部  
 国文学 第57号(昭55) 関西大学国文学研究室内国文学会  
 国文学科報 第1号(昭55) 園田学園女子大学国文学会  
 国文学研究 第72号(昭55) 早稲田大学国文学会  
 国文学研究資料館報 第14(昭55) 第15号(昭55) 国文学研究資料館  
 国文学論集 第18号(昭55) 山梨大学国文学研究室  
 国文学論集 第14号(昭56) 上智大学国文学会  
 国文目白 第20号(昭56) 日本女子大学文学部国語国文学会  
 駒沢国文 第17号(昭55) 駒沢大学文学部国文学研究室  
 金剛 第35卷2号(昭55) 第36卷1号(昭55・56) 金剛雜誌会  
 金春月報 第2卷1号(昭56) 第3号(昭56) 金春月報編集部  
 実践国文学 第18・19号(昭55・56) \* 竹本幹夫 実践国文学会  
 女子大国文 第87・88号(昭55・56) 京都女子大学国文学会  
 女子大文学(国文篇)第31号(昭55) 大阪女子大学国文学研究室  
 書陵部紀要 第31号(昭55) 宮内庁書陵部  
 人文学論集 第14号(昭56) 仏教大学文学部学会  
 聖心女子大学論叢第54・55号(昭54・55) 聖心女子大学国文研究室  
 清葉 第27号・30号(昭55・56) 清葉会  
 中央大学国文 第23・24号(昭55・56) 中央大学国文学会  
 鍬仙 第277号(昭55) 第286号(昭55・56) 鍬仙会  
 伝承文学研究第24号(昭55) \* 井出幸男 三弥井書店  
 伝統芸能 第297号(昭55) 第308号(昭55・56) 京都伝統芸能懇話会  
 塔 第20号(昭55) 国立音楽大学附属図書館  
 東京金剛会能 昭和55年(昭55) 第56年 東京金剛会

## 同朋学園仏教文化研究所紀要 第2号(昭55)

同朋学園仏教文化研究所

日本歌謡研究 第19号(昭55)

日本歌謡学会

日本古典文学会報 第1号～82号(昭47～55)

日本古典文学会

能 昭和55年4月～56年3月

観世能楽堂

能 昭和55年4月～56年3月

京都観世会館

能 昭和55年4月～56年3月

宝生能楽堂

能 研究と評論 第9号(昭55)

月曜会

能楽タイムズ 昭和55年4月～56年3月(337～348)

能楽書林

能楽の友 昭和55年4月～56年3月(160～171)

能楽の友社

能楽評論 第36～43号(昭55・56)

能楽評論の会

仏教大学大学院研究紀要 第8・9号(昭55・56)

仏教大学学会

文学史研究 第20号(昭55)

仏教大学

大阪市立大学国語国文学研究室内文学史研究会

文芸論叢 第13～16号(昭54・55・56)

大谷大学文芸研究会

文 林 第14号(昭55)

松蔭女子学院大学国文学研究室

宝 生 第29卷4号～第30卷3号(昭55・56)

わんや書店

法政史学 第32・33号(昭55・56)

法政大学史学会

法政史論 第7号(昭55)

法政大学大学院日本史学

みやび 第8～11号(昭55・56)

コミュニケーションサービスKK

武蔵野女子大学紀要 第15号(昭55)

武蔵野女子大学

山邊道 第24・25号(昭55・56)

天理大学国語国文学会

論文集 第14号(昭54)

園田学園

## 〔編集後記〕

今号には論文三篇と目録、および研究展望・能界展望(55年)を載せた。表所員の論文は宝山寺本「風姿華伝」「至花道」の筆者が竹雲軒で、しかもその竹雲軒が車屋謡本の鳥養宗断であることが精細に解明し、片桐所員の論文は前号に続き日吉大夫の事跡を追究し、西野の論文は享保前後を中心に江戸期の新作謡曲の考証である。竹本所員作成の目録は笛伝書を主体とする毛利藩由良家伝来の能楽関係文書目録で次回に続く。

展望は前号でお断りしたように今号に廻したもので、彙報も56年3月までの分である。80年館に移った4月以降の活動その他については次号に報告したい。また、57年4月に研究所は創立三十周年を迎える。10月に記念能を予定し、その準備を進めている。大方のご支援をお願い申しあげる。

(西野 春雄)

昭和五十七年三月三十一日 発行

## 能 楽 研 究 第七号

102 東京都千代田区富士見二一七七一

〇三一二六四一九八一五

編集兼  
発行者野上 法政大学能楽研究所  
記念

所長 加 来 彰 俊

印刷所

三 和 印 刷 株 式 会 社

長野市川中島一八三三一一